

特別公開F

重要文化財
藤岡家住宅
(ふじおかけじゅうたく)



奈良町見知りル 2022.11/6sun▶13sun

①歴史・概要

18世紀後半頃の町家です。当初は生薬類、幕末頃からはろうそく・鬢付油(整髪料)・おはぐろ等の小間物類、昭和になって紙類と、昭和30年代まで商いが行われ、栄えました。正面の建具はすべて開放できるようになっていて、商家の特徴をよく示しています。

建築年代が古く、商家の表構えをよく伝え、内部意匠も洗練されていて、奈良の町家の典型として貴重です。

②見どころ

正面を開放した商家の姿。下図は明治期のこの建物の様子です。当時を想像して、イメージをふくらませてみてくださいね!

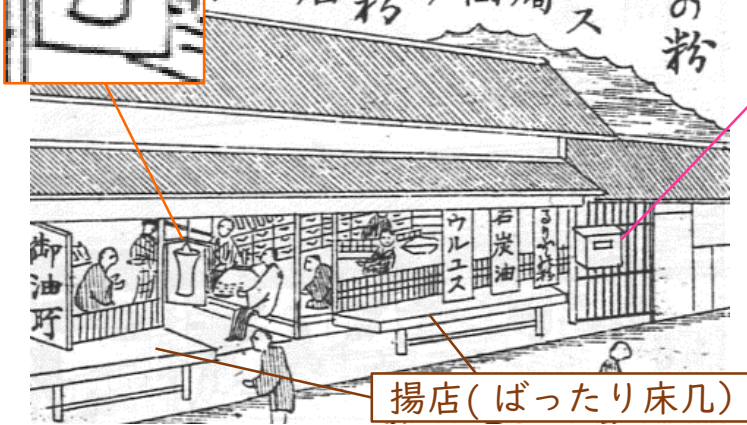
ろうそくの看板



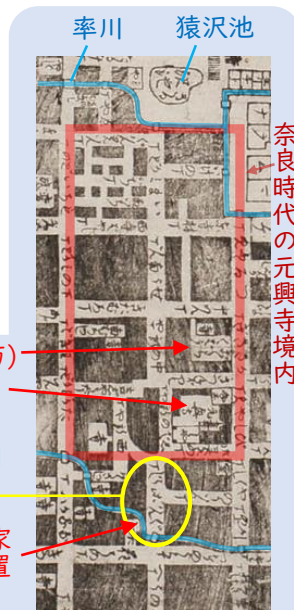
ウルユス 薬の名。「空ス」という字を分解してネーミング。腸を「空ス」下剤、あるいは毒を「空ス」万能薬という意味。

るりふしの粉 「ふしの粉」とは、おはぐろ用の染料のこと。

郵便ポスト 明治初期、この建物は郵便取扱所(現郵便局)となりました。数年でやめたようですが、この図には郵便ポストが描かれています。



▲『大和名勝豪商案内記』明治17年(1884)



●関連情報
奈良市東部、田原地区の松本家住宅(市指定文化財/幕末)には、明治初めの郵便取扱所の窓口が残り、全国の郵便ファンに知られています。
※見学は要予約。
検索 原やま里博物館

豆知識

- ・この辺りはかつて元興寺の門前でした。このため元興寺町といいます。小寺院となった現在の元興寺は、別の町にあります。
- ・江戸時代の地図では、町を川が横切っています。この川は今も藤岡家の下を流れていて、土間に石橋がかかっています。

現在の元興寺(極楽坊)
現在の元興寺(塔跡)

ぐんごうじ丁
(元興寺町)

鳴川
藤岡家の位置

『和州南都之図』宝永6年(1709)部分

